

# 会 議 記 録

No. 1

種類 会議	令和元年10月5日	証 印	出席者 相談セ森田氏・富安委員・野澤委員 木下委員・木下委員・鈴木委員・高辻委員 竹生本部長・山口・佐藤・安形・玉川	作成 佐藤 玉川
----------	-----------	-----	--	----------------

1.議題 令和元年度 第 2 回 みその運営推進会議 (グループホーム・小規模多機能)

午後 4 時 00 分 開 会

I. 柿田委員長が欠席のため、野澤委員により議事進行との説明があり、会議開催となった。

II. グループホーム報告

1) 年齢構成及び要介護度、介護状況など

- ① 平均年齢 88.9 歳 利用者の入れ替わりがあったことで上昇
- ② 平均介護度が 2.4 こちらは下がった
- ③ 介護の状態は、自立・見守りの利用者が若干増加している。
- ④ 8/29 入院されていた方がそのまま退去となった。
- ⑤ 9/4、9/28 特養に転居となっている。
- ⑥ 比較的早く、次の方が決まり、援助開始となっている。

2) 研修・会議

- ① 資料のように行った

3) デイサービスの利用状況報告

- ① 8・9月は契約者 6 名、一日平均 2.7 名の方が利用された。
- ② 途中で利用者に変更はなかった

4) 活動報告 (写真及び口頭にて)

- ① 8/29 広告を見た利用者様が「たまにはこんなもの食べたい」と言われたことがきっかけでくら寿司へ出かけた。中には 10 皿食べた方も見える。
- ② 現在開催中の「みその作品展」に向けて作品作りを行っているところ。器用に作業をしてくださる利用者も見えた。1・4・9 に作品展自体を見学に出かける予定にしている。
- ③ 職員の「ちょっと違うものを…」ということで「流しそうめん」ならぬ「流し中華めん」を行ってみた。しかし、面が重いのか、うまく流れなかった。利用者様はいつもと違うことを行っているのが喜んで見えた。
- ④ 敬老会ではボランティアの金谷姉妹に来ていただき、華やかな衣装で歌を披露していただいた。
- ⑤ 認知症患者・その家族・医療関係者・介護職などが参加し、全国で行われているイベント「ラン伴」に参加。タスキを渡して日本全国を横断していくもの。
- ⑥ 森のカフェ。折り紙の会では職員も夢中になって折らせていただいた。
- ⑦ 日常生活では、男性も洗濯や料理を一緒に行っている。

5) 事故報告

- ・ 離設事故が多い。創作までには至らなかった。 10/24 創作訓練を実施予定。
- ・ 離設前のマニュアルを作成中。離設にはそれぞれ理由があると考え、「不穏な様子はなかったか」「出ていきそうなそぶりはなかったか」などを考えていくものを検討中。

6) 質疑応答

- ・ 離設は同じ人が繰り返すのか → 同じ方が繰り返す傾向にある
- ・ そうした方への対応をどのように考えているのか → できる限り付き添うようにしている、また、玄関にはセンサーを設置して開けたら判るようにすることは常にしており、必要に応じて施錠することもある

II.小規模多機能報告

1) 登録者情報・利用状況

- ① 8 月は入院やお亡くなりになった方が見え、入れ替わりがあった。途中、26 人の契約となったこともある。
- ② 9 月末には 28 名の契約となっている。そのこともあり、通いサービスの利用者が定員いっぱいになることもある。介護度の関しては、更新した方が以前よりも下がった介護度になることが多く、平均が下がった

- 2) 職員研修について
  - ① 9月には災害に関する研修が行われ、数人が参加した。
  - ② 23日の研修は、他事業所と合同で行われた災害訓練をもとに、地震発生後4日経った状況を考えてみるということを行った。
  - ③ 多機能における対策などについては後で改めて説明。
  
- 3) 日常の様子
  - ① お盆と敬老の日に特別メニューを提供していただいた。
  - ② デイサービス主催の民謡発表会を鑑賞。「銭太鼓」の演奏を見た後、カラオケ大会となり、そこに参加される方も見えた。
  - ③ 特養で行われたカラオケの慰問や、三線とバルーンアートの慰問にも参加させていただいた。バルーンアートをしてくださったのはみそのの職員の弟さんで、カブトムシなどなじみのあるものを作ってくださり、楽しませていただいた。
  - ④ 8月にはかき氷を3回作った。曜日を変え、できる限りすべての利用者様が一度は行うことができるよう配慮した。
  - ⑤ 10/1から開催されている作品展に向けての様子。今年は初めて手縫い作品を出品させていただいた。女性二人と男性一人が縫ってくださったが、縫い目がそろっていてとても綺麗な出来上がりだった。
  - ⑥ 一宮南小学校の運動会に参加。「ひ孫」に当たるくらいの子供たちの演技を楽しまれた。
  - ⑦ 職員から消費期限が切れそうだと、このことで防災食のお餅をいただいた。そのため、皆様が経験したであろう災害について話をした後、実際に作って召し上がっていただいた。
  
- 4) 自己評価について
  - ① 自己評価を行って、全体に共通することは、「より一層の情報共有を図る」こと。
  - ② また、「地域との連携」に関して、法人との連携を図り、地域とのかかわりを深めることができるようにしていきたいと考えている。
  - ③ 皆様に書いていただく「地域かかわりシート」に関して。「事業所のしつらえ」に関わることで玄関施設は夜間以外ほとんど行っていない。現在、離設しそうな方がいるにはいるが、言葉かけしたり付き添うことで落ち着くことができている。
  - ④ 防災に関して。ご家族に対して別紙の「すまいる」を配布し、みそのとしての対応を知っていただくとともに、情報収集方法としての「災害伝言ダイヤル171」を提供。  
《質疑応答》
  - ⑤ アンケートの回答者数とメンバーの数字の違いは → 職員数は17名。アンケートに関しては答えを書かない人もいるため、回答している数が異なってきている。メンバーは話し合いをしたときに参加した人数。全員参加で話し合うことはできないが、職員会議の際に確認を行っている。
  - ⑥ 「ご本人とご家族の気持ちに差がある時に途惑う」とあるが、それはどんな時でどちらを優先するのか → 例えばご本人は「帰りたい」と思い、ご家族は「泊まってほしい」と思うという差が生じている。そうした場合はご家族の思いを受け止め、宿泊していただく。理由としては、自宅で介護をしていくためには休息も必要であり、長く介護をしていくためにはそういった時間も必要だと考えるため。
  - ⑦ ケアハウス入居者は何人いるのか → 現在は5名。ケアハウス入居前から利用している方が1名、入院後に利用開始となった方が3名、精神的疾患もあり、状況によって宿泊利用が必要となる可能性が高い方が1名となっている。
  
- 5) 事故報告
  - ① 6/24 助手席が下りてくるようになっており、利用者によってはその機能を使って昇降している。降車時、腕が収まっていることを確認して動かしたが、動いている間に動かしてしまい、怪我となった。言葉かけを行うこと、捜査中の見守りを徹底することを話し合った。
  
- 6) 質疑応答
  - ① 「すまいる」はご家族向けに配布しているのか → ご家族向けに発行。昨年の自己評価や利用者アンケートで情報発信が必要ということになり、発行を始めた。今回に関しては災害に特化して作っているが、普段は多機能内での活動を報告させていただいている。今回発信した「災害伝言ダイヤル」の情報は、知っていただかなければ、何か起こった時にみそのの情報を知っていただくことができないため、発信した。今後、訓練も行う予定。